

児童虐待防止に資する要因の探求の試み

—「心のつぶやき」の 카테고리分けの資料から—

An attempt to explore protective factors of child abuse

沢崎 俊之*

Toshiyuki SAWAZAKI

【概要】 全国地域活動連絡協議会が平成24年度に行った「心のつぶやき」活動から得られた投稿例から、児童虐待の補償因子となりうる要因を探る試み。

【キーワード】 全国地域活動連絡協議会 「心のつぶやき」活動 児童虐待予防 補償因子 投稿

1 問題

本論文は、全国地域活動連絡協議会(通称、「母親クラブ」)が平成24年度に実施した「心のつぶやき」活動で得られたデータの一部に再検討を加えたものである。

沢崎(2013)は全国地域活動連絡協議会の児童虐待防止の取り組みが、児童虐待予防を広い意味で捉え、「『親自身が自信をもって生き生きと生きる、すなわち親や大人自身の成長を含めて、広く子どもの安心感や豊かな成長を保障する環境をつくる』という視点にたっていることを確認した。このような視点にたつて、全国地域活動連絡協議会は「親や子ども達の素朴な生の声を集め、それらを集約することが、今、子育てに悩んでいる親たちへの支援・虐待予防につながるのでは」と考え、「心のつぶやき」募集の活動を開始した。具体的には400字以内で、「家族の間で感じた喜び、希望、悩み、不満など」を「一言・川柳・文章等」の形で投稿を求めた。初年度であった平成24年度は178件の投稿があり、全国地域活動連絡協議会(2013)は、それらの投稿をカテゴリー化して整理している(表1)。

本研究はそれらの投稿のいくつかを手がかりにして、「親自身が生き生きと生きる」力の源や「子育ての大変さをかかえながらもそれらをどうはね返したり、しのいだりしているのか」を探ることで、家族そのものや家族をとりまく環境が持っているであろう、児童虐待や不適切な養育に対する「補償因子(防御要因)」についての仮説生成に迫ろうとするものである。

2 方法

(1) 対象：平成24年度に全国地域活動連絡協議会が実施した「心のつぶやき」募集活動に投稿した178件の投稿のうち、父母の視点から書かれた投稿140件(子どもや祖父母等の視点等からのものは除外した。)

(2) 方法：全国地域活動連絡協議会が整理したカテゴリー分けをふまえ、それらのカテゴリーごとに、代表的な投稿例をとりあげ、児童虐待・不適切な養育の補償因子となりうる体験の記述を特定し、考察を加える。今回はカテゴリーをまとめる枠組みとして、「子育てにやりがいを感じる力の源」「不安・困難ななかでの喜び・支え」「親自身の成長とそれを可能にしたきっかけ」「様々な家族とその抱える困難」を採用した。今回対象とした投稿に関係するカテゴリーを今回の枠組みの中に整理して示したものが、表2である。

表1 平成24年度投稿のカテゴリー整理枠組み

- (1) 様々な家族とその抱える困難
 - ① 悩みはつきない
 - ② 離婚・単親
 - ③ 病気・障害
 - ④ 死
 - ⑤ 妊娠・出産
- (2) はねのける力の源
 - ① 何げない会話
 - ② 笑顔の力
 - ③ 寝姿
 - ④ 子どもの成長
 - ⑤ 新しい兄弟への思い
 - ⑥ そのやさしい気持ちがうれしいよ
 - ⑦ 夫婦・友達
- (3) 親の思い込みの変化・親の成長
- (4) パパのつぶやき
- (5) 祖父母・地域の人のかわり
- (6) 子どもの声

* 埼玉大学教育学部

表2 今回のカテゴリー整理枠組み

- (1) 子育てにやりがいを感じる力の源
 - ①何げない会話
 - ②笑顔の力
 - ③寝姿
- (2) 不安・困難ななかでの喜び・支え
 - ①子どもの成長
 - ②新しい兄弟への思い
 - ③そのやさしい気持ちがうれしいよ
 - ④夫婦・友達
- (3) 親自身の成長とそれを可能にしたきっかけ
 - ①親の思い込みの変化・親の成長
- (4) 様々な家族とその抱える困難
 - ①悩みはつきない
 - ②離婚・単親
 - ③病気・障害
 - ④死
 - ⑤妊娠・出産
 - ⑥パパのつぶやき

3 結果と考察

親自身が子育てにやりがいを感じる、あるいは不安・困難ななかでの喜びや支えとなっているのはどのような体験であるのだろうか。以下に、カテゴリーごとに代表的な投稿例を取り出し、とくに児童虐待・不適切な養育の補償因子を考える際に関係が深いと思われる記述を特定し、それをゴチック体で示し、考察を加えた。

(1) 子育てにやりがいを感じる力の源

この節に含めた3つのカテゴリー（「何げない会話」「笑顔の力」「寝姿」）はそれ自体で、子育てにやりがいを感じる力の源を示しているといえるが、さらに、各カテゴリーの代表的な投稿例からその「補償因子」の可能性となりうる体験の特質を探る。

① 何げない会話

投稿1 **何げない 会話が実は 宝物**

投稿2 **毎日の 親子の会話 たのしみだ**

私たちは、何げない会話を、それこそ毎日何げなく交わしている。それを「宝物」と感じられる時がある。

② 寝姿の力

投稿3 **怒っても しかっても許してしまう その笑顔**

高校生の男の子と小学生の女の子。毎日小言の日々。でもどんなに私が怒ってもお調子の2人はすぐ笑顔で話しかけてきます。その顔を見ると怒っていた気持ちはどこかへ行っていつも通りになる我が家。反省はないのでしょうか？毎日同じようなことでやりあっています。私と子どもたち、あと旦那とも。

投稿4 **いたずらも 忘れてしまう その笑顔**

投稿5 **“だっこ、だっこ”で疲れ倍増！“にっこ、にっこ”で幸せ倍増！**

投稿6 **何よりも 幸せくれる 子の笑顔**

投稿7 仕事で疲れはてて帰ってきた夜、**子ども達の「おかえり」の笑顔で何度すくわれたことでしょう。**母親らしいことをあまりできなくてごめんね。一緒に居られる時間を大切に、これからもみんな笑顔でいられますように。

「怒りを忘れさせてしまう」笑顔、「幸せが倍増する」笑顔、「仕事で疲れ果てた親を救う」笑顔、様々な笑顔の力がみられる。

③ 寝

投稿8 **暑いけど 四人くっつき寝る しあわせ**

投稿9 我が家には息子が3人。周囲の人は大抵「大変そ〜」とか「うわあ〜」という反応。でも幸い私には娘がいないから、息子は大変というのがわからない。兄2人が泣く三男を笑わせるため必死にヘン顔している姿。**熱帯夜に3人重なり合うようにねむる姿などなど。3人息子がくれる幸せな時が沢山あるんです。**

投稿10 **おこつても けんかをしてしても ゆるしちゃう？ ねがおをみたら ゆるしちゃう？**

「怒っても、けんかをしていても許してしまう」寝顔がある、「熱帯夜に兄弟3人が重なり合うようにねむる姿」をみる幸せがある、「暑い中、4人でくっついて寝る」幸せがある。

(2) 不安・困難ななかでの喜び・支え

この節に含めたカテゴリー名の「子どもの成長」「新しい兄弟への思い」「そのやさしい気持ちがうれしいよ」「夫婦・友達」は、なんらかの困難な状況のなかで、その状況を展開させるきっかけとなった源を名づけたものである。

① 子どもの成長

投稿11 **「泣かなくていいよ。ね？すぐ痛い治るから」**

あまりの腹痛(息子からもらった胃腸炎ですが)に、泣きマネをしていたところ、そうなくさめてくれました。私がいつも息子に言っている言葉です。**さらに頭もなでてくれました。**スッと心が楽になりました。子どもにとっても親にとっても、辛い時の声かけは大事なんですね。そして、よく見ているなあと感じました。

投稿12 **いつだったか、私が体調をくずして寝込んでいた時、子どもが傍に寄ってきて「痛いの？痛い？大丈夫だよ。いいことあるからね。」**と言ってきたので、その時の姿がとても可愛らしくて、心が和みました。

投稿 1 3 ・・・・また別の日、次男を自転車の前座席に乗せて走っていたら、目の前の高架をJRの特急列車が通り過ぎた。「こんどお母さんとお父さんとお兄ちゃんと3人で乗れるよ。」と息子。4人でしょと私が言うと**自分は運転手だから乗せたと答えた**。つい数日前まで4人で乗ろうって言っていたのに、いつ運転手になるって決めたのかな。子どもって毎日見て話して一緒に過ごしているけれど、私とは違う一人の人間で知らない事がたくさんある。全部はムリだけど、もっといっぱい話そう。

「いつも自分が子どもに言っている言葉で慰めてくれる」息子がいる、体調をくずしたときに傍に来て、「大丈夫だよ。いいことあるよ。」となぐさめてくれる子どもがいる、「毎日一緒に過ごしているけど、私とは違う人間で知らないことがたくさんある」息子がいる。

② 新しい兄弟への思い

投稿 1 4 第2子を妊娠して現在6ヵ月。長男の入学準備の為ランドセルを見に行ったある日、長男が店員さんの「人気商品は売り切れてしまいます」の『売り切れ』を聞いて心配になったようで「**赤ちゃんの分も買っておいて!**」とまだ見ぬ弟か妹への優しい想いが感じられたとても嬉しい出来事でした。

投稿 1 5 長男を出産したときは、夫婦2人の自由で気楽な生活から一変、初めての育児にとまどうばかりで「赤ちゃんかわいいでしょ?」と聞かれても心から"はい"と言えないつらい日々でした。またあのつらい日々が始まるのかと思うと2人目なんてとんでもない・・・そう思っていました。周りは子どもが3人も4人もいる人が多くひとりではかわいそうかも、と悩むこともありましたが、踏みきれないまま5年が過ぎ、きっとこのままひとりっ子で育てていくのだろうと思った矢先、お腹に赤ちゃんがいることがわかりました。長男にお兄ちゃんになることを伝えたと「**赤ちゃんいっぱいだっこしてあげるよ!!!**」とうれしそうに言ってくれたとき、この子に兄弟をつくってあげられてよかったと胸がいっぱいになりました。2人目の育児は、弟をかわいがってくれる長男に助けられながら楽しめている毎日に、あれこれ悩んでいた頃が懐かしく思えます。子は授かり物だと2人を見ています。

まだ見ぬ弟・妹のランドセルの「売り切れ」を心配する長男がいる、新しい命が宿ったことを伝えると「赤ちゃんいっぱいだっこしてあげるよ!!!」とうれしそうに言う長男がいる。

③ そのやさしい気持ちがうれしいよ

投稿 1 6 保育園から帰宅した夕方のこと、今日は仕事で疲れていて「ママご飯作りたくない」とついつい子どもに本音を。すると**子どもが「作ってあげる!」とやる気満々で台所へ。と思つたらすぐに引き返ってきて「できない」というので「知ってる」と答えてしまいました。(笑)**作れないことは最初からわかっていただけその気持ちが嬉しいよ★

「大きくなったらママにご飯作ってね」と言う。「いよ!」とすぐに返事が返ってきました。疲れていたけどちょっと元気がでたので夕飯づくりの準備にとりかかるとのことでした。

投稿 1 7 「ねえ!お母さん、手を繋ごう!」突然言われた一言。どうしたのかな?何があったのかな?すると・・・「**手を繋ぐと、温かい気持ちになるでしょ?**」仕事で疲れて笑顔の少なかった私・・・手をにぎり返すと満面の笑み。子どもの何気ない言葉にジーンときた。

生まれてきてくれてありがとう!!そう思える今、幸せだなあと思える。そんな息子が私の原動力です。

「作ってあげる!」とやる気満々で台所へ向かう子どもがいる、「手を繋ぐと、暖かい気持ちになるでしょ?」と仕事に疲れて笑顔の少なかった母親に手を繋ごうと誘う子どもがいる。

④ 夫婦・友達

投稿 1 8 私は子育て十六年生。悩みはつきない。思春期に入った息子は第一子。一方通行の私の思い。おさまり所がなくてイライラ。頭では思春期だからとわかっているつもりだが、気持ちが抑えられずケンカになってしまう。自分も昔、親を困らせたな。今まで教えてきたことや躰なんて陰も見えず、自分の育児を振り返り落ち込んでしまう・・・。こんなはずじゃないのに。**こんな時、息子の同級生の母親の友達とグチ大会!!夫にもグチ大会の開催!!**相手のグチにはそんなの大丈夫よ!とか今の年頃だからなどと言い、自分の子どものことも相手に同じ様に言われ少し胸をなでおろす。吐き出す事は大切!!子育てって思うようにいかないものだ。だからこそ、友達とつながったり、自分の見聞を広めたりしながら、自分の価値観を柔軟に変えていく新しい発見がある。

投稿 1 9 つい先日、夫婦げんかをしました。私達夫婦にとって、子どもが生まれてから初めての実に9年ぶりという、久しぶりのけんかです。ほんの一瞬の出来事の様なけんかだったけれど、子ども達の目の前で・・・してしまいました。しまっ

たあとと思ひ、すぐ平常心にもどり「大じょうぶよ、大した事ないのよ」みたいな態度をとる自分がいました。心はけんかをした事ですごくショックを受けていましたが、母って何か強いなと思ひました。子ども達は何事もなかったかのように、けろっとしていましたが、どう思っただろうか？今でも気になっています。私たちは**子どもの顔を見るだけでも癒され、会話も生まれ、仲直りも出来ました**。お互いに家族という絆を壊したくないという気持ちがあったからだと思います。子どもがいて、子ども中心の生活だけれど、とても幸せだなあとと思ひます。そしてやっぱりけんかしたくないなあと大反省の日々でした。主人とは今後も仲良くしていきたいです。

投稿 2 0 大切な主人へ

ありがとう。あなたの"味方でいるから大丈夫"の一言であの時の私は救われました。これからも幸せに暮らそうね。仲良くしようね。同居をしていた頃、両親との折り合いが悪く日々ケンカしては泣いていました。

「誰も私の気持ちを分かってくれない。私には誰一人優しくしてくれない」と主人に話した時、

「おれは何があっても味方でおるよ。淋しいこと言わんでや。」と言ってくれました。

心から救われました。

「息子の同級生の母親の友達や夫ともグチ大会の開催をする妻がいる、「子どもの顔を見るだけで癒され、会話も生まれ、仲直りできた」夫婦がいる、「おれは何があっても味方でおるよ。」という夫がいる。

(3) 親自身の成長とそれを可能にしたきっかけ

この節に含まれるカテゴリーはひとつだけであったが、親の思い込みがなんらかのきっかけで変化し、親自身の気づき・成長につながった源を示している。

①親の思い込みの変化・親の成長

投稿 2 1 春まだ浅い3月下旬。私は焦りと焦燥感の間だった。4歳を目前にした娘に、何度同じことを言っても伝わらない日々が続いていたからだ。何十回何百回と言ひ聞かせても、その時は「ごめんなさい！次からは気をつける！」と泣きじゃくるのに、その"次"はあっという間に来てしまう。一体、私の何がいけないのか。どうしたらこの子に伝わるのか。答えのない日々完全に行き詰っていた。

そんなある日、地区の一斉清掃のため近所を掃除していると、娘が嬉しそうに言った。「**お母さん見てー！春が咲いてるよー。**」

その指さす先には、小さな白い花を咲かせている雑草。その瞬間、私の中の何かが一瞬と緩ん

だような気がした。この子は、こんなに素敵な表現ができる子に育っている。私はただ一点だけを見て、ムキになり過ぎていたんじゃないか。娘の一言が、少し気長に付き合うという余裕を私にくれた瞬間だった。

投稿 2 2

4才の息子は口も達者になり、少しずつ我も強くなってきて、親の言う事を聞かなくなってきました。叱れば叱るほど反抗し、口で表現できなくなると私に対して叩いたり蹴ったり。こちらも反抗的な態度や自分の大声にさらに興奮してヒートアップ。**ある日、説教と言ひ訳のくり返しの末、大声でどなりつけた時に固まってしまった息子を見て**「ママ少し言ひすぎたね。ごめんね。」と謝ると、一歩も譲らず反抗していた息子が一変し「ごめんなさい、ごめんなさい。」と号泣し抱きついてきました。私は気づきました。子どもは悪い事をした時はちゃんと反省している。ただひきさがれなくなっただけだと。私は「力は力しか生まない」と実感しました。それ以来、決して叱りっぱなしにせず、叱った後はいつもの笑顔に戻るまで、必ず抱きしめて会話することにしています。叱る時こそ親が冷静になろうと心がけています。

投稿 2 3

我が家の長女(7)はすごく自己中・・・なんでこんなにマイペースで自己中心的な子なんだろうと思っていた。ある時、「**学校でがんばってるからね。家で自分が出せているのはいいことよ**」と言われて気がついた。家族の前で自分を出さなかったらこの子はどこで自分を出すのか・・・家で自分の気持ちを表現し、甘えからの自己中心的な行動だと思うと少し安心し、うれしくなった。

子どもの頃、母が「世界中の皆が敵になってもお母さんは絶対最後まで味方だから」と言って育ててくれた。今、自分が母になり自分にとっての支えの言葉だったと感じる。私も自己中な長女と甘え上手な二女(5)にこの言葉を伝え、安心して毎日を過ごしてほしいと思う。

心から大切に大好きな娘達、立派にならなくていいから、元気で毎日を楽しく過ごしてほしい。

「世界中の皆が敵になってもかあちゃん絶対あなた達の味方だよ♥」

「お母さん見てー！春が咲いてるよー」と指さす娘の言葉があった、「説教と言ひ訳のくり返しの末、大声でどなりつけた時に固まってしまった」息子の姿があった、「学校でがんばってるからね。家で自分が出せているのはいいことよ」と言われてはっと気づく自分がいた。

(4) 様々な家族とその抱える困難

この節にまとめられているカテゴリー一名はそれぞれが抱える困難の観点から名づけられたものなので、ここでは、

その困難をはねのけているとしたら、どのようなことがそれを可能にしているか、に注目する。

①悩みはつきない

投稿24 三児の母として毎日のがむしゃらに送っています。小2の長女が運動会が終わったところから反抗的な態度や泣きだすとなかなか止まない。そんな事が繰り返される中で、私は母としてどう向き合ったら良いのか分からなくなってきました。娘に対して気を遣うようになり、娘もまた私の顔色を見ているようにも感じる。

私は、母として失格かもしれない。そんな思いで涙は溢れ……。でも、**そんな時娘が一通の手紙をくれた**。「お母さん、毎日お仕事して頑張ってくれてありがとう。私も学校頑張るからね。」と。

私は子育てをしている中で、子ども達に成長させてもらっているのだと感じた。今は大変かもしれない。だけどいつか笑って振り返る日が来るだろう。だから、私は今日も前を向いて子ども達と共にゆっくり前進していこうと心に誓った。暖かい眼差しで、今しかない子ども達の成長を心に焼きつけようと思う。

投稿25 初めての子育て、なかなか自分の思い通りにならなくてイライラして、子どもにあたっていました。そんな時夫から「子どもを甘やかすすぎだ」と言われました。私は母親失格だ。もう子育てに自信がない。自分で自分を責め落ちこみました。心が折れそうになりました。**友人に相談すると**「子育てって教科書みたいに上手いかわからないよ！子どもって1人1人個性があるし、成長も個人差があるから、それと他の子とは比べない方がいいよ」と言われました。少し気持ちが楽になりました。

またある人には、子育てに自信を持って、楽しくしましょう！と言われました。

これからは、心に余裕を持って子育てをしたいと思います。子育てをしっかりと子どもから学ぶ事もあるし、これから先いろいろ大変だと思うけど子育てががんばっていこうと思います。

母として娘とどう向き合ったら良いのか分からなくなってきたとき「娘からの手紙」があった、子育てに自信を失ったなかでの、「友人への相談・友人からのアドバイス」があった。

②離婚・単親

投稿26 **ごめんな**、パパとママがはなれてしまって、お前がママと一緒にいることができなくなってしまっでごめんな。でも、パパがじいちゃんやばあちゃん達が前を全力で守っていくからな。

お前がやさしくて強くて思いやりのある大人になれるように、みんなでがんばるからな。ごめんな。

「子どもがやさしくて強くて思いやりのある大人になれるように、みんなで頑張るから、ごめんな」とつぶやく父親がいた。

③病気・障害

投稿27 父はガンになりました。ガンになるまでは「お酒をがまんするくらいなら、お酒を好きなだけ飲んで早く死んだ方がいい！！」と言っていたのに、ガンになってからはお酒は全く飲んでいません。母と東洋医学を取り入れてたり、ガンに良いと聞いた事には色々とチャレンジもしています。そんな父の姿を見ていると“まだまだ生きたいんだ”というのが言葉には出さないけれどビシビシと伝わってきます。私は父になにをしてあげればいいんだろう……。すごく考えさせられました……。**私に出来る事、子どもをしっかりと育て、家族と仲良くする事……事故に気をつける事……健康でいる事……実家に帰る時はヘラヘラしてお母さんを笑わす事……かな？！**ヘラヘラしていると皆が笑ってくれるから、私のヘラヘラした性格も悪いもんじゃ……。ないかな？！父が1日でも長く生きられますように……。父の事が大好きな娘より。

投稿28 私の実父が病に倒れ、その一報が入った時、3人の子の親である自分が、素の子どもに戻り、頭が真っ白なまま家で飛び出して実家に向かった。後になって聞く話、その時我が子も私の動揺を見て同じく動揺していたらしい……。それから父のことでバタバタする自分。子どもが後まわしになることも度々。そんな時、ある人の一言で視点が変わった。**「今一番大事な事を優先しなさい」**私が優先すべきは子ども達。親への感謝もあり、すごく葛藤したけれど、だからといって、親を放っておくことにはならないから……。との言葉にはりつめてたものがスッと楽になった。

それから、私に気を使ってくれた子どものことにも気付けた。こんなに小さい子ども達だけど、私なんかよりずっと上手だなということと感謝がわいてきた。そんなことに気付くと、より一層、愛しいなあと感じることができた体験だった。

父の病にたいして自分の出来ることを必死に考える娘がいた、混乱する中で「今一番大事なことを優先しなさい」という言葉を送ってくれた人がいた。

④死

投稿29 親友が39歳の若さでこの世を去った。小学2年と4年の子どもを残して。彼女の気持ちは計り知れない。

けれど、最後のお別れのときに笑顔を見せていた2人の子どもは、きっと彼女の愛情を十分に受け、これからの人生をしっかりと歩んでいけるのだらうと感じられた。

私にも3人の子どもがいる。**彼女には今も（そしてこれから先もずっと）大切なことを教えてもらっている。**今、私に出来ることを一生懸命やろう。今与えられている幸せに感謝しよう。辛い事、苦しい事から逃げずに受け止める強さを持とう。命は限りあるもの。当たり前なことだけど今まで気にせず生きてきた。

3人の子どもに命のバトンを渡すことは出来た。そのバトンをしっかりと次に渡せるように、この子たちを育てたい。子どもと一緒に笑い、泣き、考えて、一日一日を大切に生きたい。

親友の死を受け、「今も、（そしてこれから先もずっと）大切なことを教えてもらっている」と思う母親がいる。

⑤妊娠・出産

投稿30 2番目の子どもである長女は30週目で生まれ、2カ月病院に入院していました。大きく産んであげられなかったことを申し訳なく思い、保育器の中で眠る赤ちゃんを見ては、無事に育つのかと心配でした。

その頃、**2歳の長男がよく歌っていた曲が「手のひらを太陽に」**でした。その歌詞からは命の尊さのようなものが感じられ、「**ぼくらはみんな**いきている〜」「**ぼくのちしお〜**」と少し難しい歌詞を無邪気に歌う長男に、とても励まされました。

2カ月経って無事に退院。少しずつ成長していることを実感する日々です。長男の赤ちゃん返りに悩まされたり、赤ちゃんの笑顔に癒されたり。子どもが成長するにつれ、親の願いもふえてくるものだと思います。でも植物や虫達に囲まれながら、太陽の光を浴びてゆったりと散歩したときに感じた「生きていることの幸せや感謝の気持ち」を忘れないようにしたいと思っています。

「2歳の長男がよく歌っていた『手のひらを太陽に』にはげまされる」母親がいた。

⑥パパのつぶやき

投稿31 ママと2才の妹の「お店のご飯とママのご飯どっちがおいしい?」「ママ!!」という会話を聞いて、**4才の息子が「パパのもおいしいよ!!」**

とニコリ。気をつかったのかな・・・と思いつつ、その言葉に「きゅん♥」となり、料理好きのパパの闘志に火がつけました。ママに負けないゾ!!と頑張るパパです。

「4才の息子の『パパのもおいしいよ!!』に闘志の火がつく」父親がいた。

4 まとめと今後の課題

本研究は、投稿例におけるそれぞれの方の「親自身が生き生きと生きる」力の源や「子育てや家庭の困難さを抱えながらもどうそれらをしのいだりあるいははね返したりしているのか」を探ることで、家族そのものや家族をとりまく環境が持っているであろう、児童虐待や不適切な養育に対する「補償因子（防御要因）」についての仮説生成に迫ろうとするものであった。

今回様々な「力の源」が語られ、それら一つ一つが児童虐待や不適切な養育の予防に大いに関係する可能性は高いと考えられる。しかし、投稿者にとって意味ある「力の源」として体験された体験は、それをそのように受け止めた投稿者側の要因があつてこそ、とも言えよう。今回の研究方法ではその点を明らかにするには至らなかった。

そのような児童虐待・不適切な養育の「補償因子」の仮説生成の試みをさらに追究することが今後の重要な課題であるが、その一方で、子育て中にある読者がこれらの投稿を読み、そのいくつかの投稿に共感するといった営み自体の中に、その人にとっての意味ある「補償因子」の発見があるという考え方に添ったさらなる研究も期待される。

(注) 本文でも述べたように、本研究は全国地域活動連絡協議会が行った活動から得られた資料に基づいて行われた。記して感謝したい。

引用文献

- ・ 沢崎俊之（2013） 「心のつぶやき」から見える親子関係 — 家族が抱える困難とそれをはねのける力の源 — 、みらい子育てネットだより Vol.25 pp.3-4 全国地域活動連絡協議会
- ・ 全国地域活動連絡協議会（母親クラブ）事務局（2013） 母親クラブによる全国一斉（平成24年度）推進事業（ご報告）、pp.4-7 全国地域活動連絡協議会